

疥癬症について

新年おめでとうございます。昨年は台風や豪雨などの災害が大型化し、深刻な被害に見舞われ、未だに復興できていない、多くの方々や、故郷と生業を失い避難生活が9年にもなろうとしている原発事故被災者の方々、そのような皆様が、どのような新年を迎えられたのか、心配ですが、今年こそ復興の進んでいく年にしたいものです。

12月4日、ペシャワール会の中村哲医師がアフガニスタンの地で、護衛の方々と共に凶弾に倒れました。悔しくて、悲しいです。彼は、国会の証言でも、自衛隊の派遣は、百害あって一利なし、と言い切っています。米軍基地や兵器では平和は守れない。何兆円という税金を災害復興に充てて欲しいものです。中村先生に見習って勇気を持って、一隅を照らす、活動をしていかななくては、との思いを新たにしています。

今月は疥癬症についてです。医療関係の方は良くご存じなのですが、一般には余り知られていません。0.4mmほどの小さいダニですが、こともあろうに、人間の皮膚で交尾をし、卵を産みに皮膚に潜っていくのです。2~3個毎日、約1か月間産み続けます。その卵は、10~14日で成虫になり、また卵を産み続けます。小さな赤い丘疹で、何かの虫刺されのようです。そこでステロイドの入った軟膏を塗布しますと、少し効くように感じて広がっていきます。治らないため、どんどん強いステロイドに替わっていく事もあり、内服のステロイドが使用されたりしますと、ますますダニは住みやすくなり増えていきます。ダニだって、自分に対する抗体を持っている人には入りたくないのです。ステロイドで抗体を弱めると、入りやすくなります。人から人へ伝染します。10度以下、50度以上で死にます。私共のところへは、何らかのアレルギーに違いないと思っておいでになる方が多いのですが、中にはこのような疥癬症が混じっているのです。

バスのつり革を持っていて、指に2~3個ぷつと刺された、しばらくして広がったので、ステロイドを塗布した、全身に広がったため、ステロイド内服が出された、服用が怖いのであれば、アレルギーの除去でもしようかと受診。疥癬の治療で完治。

看護師さん、職業柄抗体あり、ですが、火傷しステロイド塗布したところに、ぎっしりダニが入り込んで、まるで木いちごが並んでいるようでした。外用剤のみで完治。

これらの、わかりやすい疥癬症（ORTにて確認）もありますが、ダニが出た後も、ダニの分泌物などが残り、それにアレルギー反応を起こし、ステロイドが効くところもあるのです。ステロイドを塗布すると、ダニが入りやすくなり、まさに、マッチ・ポンプの状況になっている症例も時々拝見します。あれ？おかしいな、こんなはずじゃないのに、と思うことが大事です。治療薬は、北里大名誉教授の大村智先生が、ゴルフ場の土の中から見つけた薬—アフリカの失明に至る風土病の特効薬—ストロメクトールがとても有効です。軽いものは、外用剤のオイラックス（クロタミトン、殺ダニ剤）で治ります。その他、詳しくは、治療の必要な時にお聞きください。

鈴木富美